

松原寺通信

第八号 令和四年九月一日
発行 松原寺 彦根市松原二丁目
責任者 佐々木 亮 釋亮真

お盆から彼岸へ

松原寺では、初盆にあたるご門徒さんの合同法要を行っております。一般のご門徒さんも一緒に参りするのですが、一見、合同のお葬式の様にも見えます。先に逝かれた方の写真を前にして亡き人を偲び、一緒におつとめをします。家族葬が主流になった今、親しい方のお葬式に行きたくても行けない事が大半です。そんな時に松原寺のお盆の法要は、とても大事な意味を持つてくると思われます。お葬式には行けなかったけれど、あの方も亡くなったんですよ。この人もやったな。いつか私も行く道やな。と亡き人を通してお念仏に出会い、大事な事を思い

起こさせて頂くのです。これからも皆様と共にこの法要を大事に続けて行きたいと思います。

さて、そんな亡き人を偲びお念仏に出会う絶好の季節はお盆のすぐ後にも控えています。秋のお彼岸です。彼岸とは私たちの命の行先である「浄土」の事です。命の行先なんて普段あまり考えないでしょう。私もそうです。若くて元気なうちはみなそうだと思います。しかし、彼岸は例外なく、皆が行く世界です。それもまったなしにやってきます。今まで一所懸命握りしめてきたものをすべて捨てていく世界です。お盆とお彼岸の年2、3回位は命の行先を考えませんか？



盆会の様子

お仏壇について

みなさんのお家のお仏壇の阿弥陀さんは「字」もしくは「絵」それとも「像」のどちらでしょう？どれも仏の働きをあらわしたものです。どんな働きかといいますと、「絵」や「像」の阿弥陀さんのうしろには光がさしていると思います。じつはこれが48本あるのです。阿弥陀さんは私たちに48の願いをもって働き続けてくださるのです。そして48

の中で一番大事な根本の願いが第18番目の願いです。これを真実の願い「本願」といいます。私たちの娯楽の世界に「十八番」という言葉がございますが、これは阿弥陀さんの十八番目の願いである「本願」が語源と言われています。本願は私たちが必ずすくうという働きです。すくうといっても金魚すくいのように上からサツとすくうのではないのです。私が悲しんだら悲しんだところまで、苦しんだら苦しんだところまで阿弥陀さんが来て下さり、一緒に救って下さるのです。

お知らせ

・朝の会 毎月第2土曜日6時半
※会員制ではありませんので自由にお参り下さい。

・報恩講

十月二十二日(土) 十三時半

法話…川村妙慶師